

H21_II 「都市公園の安全安心対策のあり方」に関する調査

調査項目 「都市公園の安全安心対策のあり方」に関する調査

調査年次 平成 21 年度 章番号 [II]

目的

本調査は、平成 21 年度より創設される「都市公園安全・安心対策緊急総合支援事業」に則して、市街地の防災性や公園施設の安全性の向上、施設の長寿命化に係る対策について、大都市にアンケート調査を行い、都市公園の新規施策展開の基礎資料とすることを目的とする。

概要

本テーマの討議、調査に際し、国土交通省都市・地域整備局都市公園緑地・景観課との意見交換を行い、アンケート調査を実施した。

アンケート調査項目は、1.「公園施設長寿命化計画」策定に当たっての大都市の対応状況、2.地域防災計画及び地震防災緊急対策事業五ヵ年に位置づけのある都市公園における災害応急対策施設の整備状況、3.遊具・水景施設の安全確保、事故抑制の取り組み、4.公園における犯罪抑制のための取り組み等とした。

結果

■ 「公園施設長寿命化計画」策定に当たっての大都市の対応状況

①都市公園台帳について

都市公園台帳の整備についてはすべての大都市で整備されているが、台帳更新はなかなか進んでいないのが実態である。電子化への取り組みについては、各都市で違いがみられ、紙ベースのものの電子ファイル化やいくつかの台帳システムを構築しデータベース化を図っている都市、インターネットを介して情報の共有化を図ることを目標としている都市があがっている。

②公園工事履歴について

公園施設の工事履歴を保存している都市は半数にも満たなかった。更新について毎年都市公園台帳に記載更新をしている都市は2都市、何らかの形で更新している都市が4都市となっている。

③公園施設長寿命化について

公園に対する維持管理方針について本格的な作成を行っているところは少なく、指定管理者応募で作成した維持管理水準書、巡視マニュアルに記載しているもの、遊具の安全管理要領に拠っている都市などの回答があった。

④施設の日常点検・補修について

各種施設の日常点検についてそれぞれの都市で何らかの対応は行われているが、点検の頻度については都市によって開きがあった。

各種建築施設について、法定点検は実施されているが、それ以外の点検については、指定管理者による点検や、職員による点検にとどまっている都市が多い。

小破修繕については適宜施設の状況によって対応している。日常点検、定期点検、市民からの情報等により随時実施している都市が多く見られ、部品交換、塗装、資材交換といった項目が挙げられている。

大規模修繕については、個別施設については具体的の方針化されている都市は多くない。おそらく、公園老朽化の状況によって個別に判断されていると思われる。

⑤施設の日常点検・補修について

公園施設長寿命化計画の策定については、すべての都市で今後取り組むと回答した。具体的に調査に着手予定年度として仙台市、横浜市、神戸市、北九州市が平成 21 年度を予定していると回答があった。

■ 都市公園における災害応急対策施設の整備状況

都市公園における災害応急対策施設の整備状況については該当都市の事例シートを作成した。

■ 遊具・水景施設の安全確保、事故抑制の取り組み状況

遊具の日常点検についてはほぼ毎日という都市が5都市、週一回程度が1都市、月に1・2回程度の都市が5都市、年に数回2都市とばらつきが見られた。

遊具の事故発生事例と水景施設の事故発生事例の報告では、遊具の事故発生例が多く、事故内容も危険性の高いものであった。水景施設についてはこうした深刻な事例はなかった。

調査項目 「都市公園の安全安心対策のあり方」に関する調査

調査年次 平成21年度 章番号〔Ⅱ〕

■ 公園における犯罪抑制のための取り組み

都市全体での「安全安心まちづくり」対策については、半数近くの都市で対応を行っているが、一方公園における取り組みとしてはきわめて少ないのが実情である。地域による防犯パトロールなどに公園のパトロールも組み入れられているためか、公園独自の取り組みは少ない。

公園における防犯環境設計の取り組みは半数に満たない。また、地域、警察、公園管理者による連携なども具体的取組報告はなかった。

課題

(1) 「公園施設長寿命化計画」策定調査のまとめ（検討会での意見）

①現況調査について健全度調査と安全基準調査を並行するのではなく、長寿命化計画という視点としては、施設健全度調査を先行して行うことが必要。

②毎年実施している、公園施設の定期点検、委託点検などを有効に活用し、委託業務として点検を行っている場合には、長寿命化に関するコメントを含めた点検委託を行うことで、健全度調査として適用することができる。

③長寿命化についての期間としては、10年では対象施設が少なくなるが、30年ではほぼすべての公園施設が対象となる。長寿命化計画の実施期間を十分検討したうえで、計画期間の設定を行っていくことが求められる。

④毎年管理費が削減されている中で、ライフサイクルコストの縮減ということであれば全施設について比較的長期の計画を立てて、3年後、5年後に計画更新していくという考え方もある。

⑤背伸びをした計画としないで、これまでのさまざまな点検、計画といったものを集約して計画策定をしてほしい。様式項目は極めて単純だと思っている。実質的にきちんとした維持管理がなされていることが重要。

(2) その他公園の安全安心対策についての調査のまとめと今後の課題

遊具施設については国から出された指針によって、一定レベルの点検、記録、対応が確保されている状態であるが、水景施設やその他施設について、十分な安全安心対策がなされている状況にはないと判断される。今後は遊具だけでなく、公園の犯罪抑制などの取り組みも含め、公園施設、公園空間の総合的な安全安心対策のためのガイドライン等を検討していく必要がある。

調査結果の反映等

キーワード 都市公園、安全安心対策、公園施設長寿命化計画、日常点検・補修、事故抑制
犯罪抑制、災害応急対策施設

事例公園等